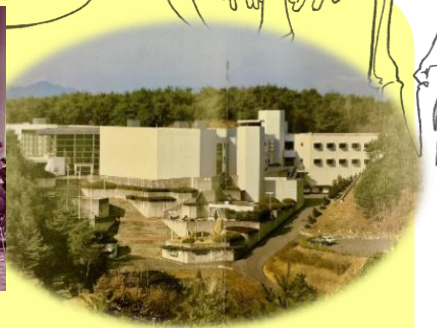


序章

岐阜県置県100周年記念事業として、昭和46年3月に建設が決定！
もともとは歴史博物館になる予定であったが、どうにか自然部門も含む博物館にしたいとの強い意見があり、総合博物館として歩みだすこととなった。



昭和51年 (1976)

祝 岐阜県博物館開館

岐阜県博物館は無事に建設され、5月5日に開館式典を行った。開館を待ちわびていた人々の行列が100mを超えたため、開館時間を30分繰り上げて開館し、入場制限を行うほど盛況であった。



ミツバチの巣箱の内部

皇太子御夫妻(現上皇御夫妻)来館(7月)
鶉飼の模型をご覧になり「これはすばらしい！」とお褒めの言葉をいただいた。自然展示室1にあるミツバチの展示もお気に召されたようだ。



旧入口の横には鹿児島県から贈られた溶岩や植物がある



記念すべき最初の特別展は「ふるさとの文楽(8/1～8/31)」で人形浄瑠璃を紹介。講堂では半原人形浄瑠璃や真桑文楽の実演も。

それまで無料だったの!?

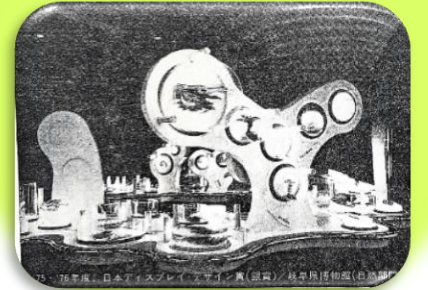


入館料徴収開始(10月)
一般100円、高・大生50円、小・中生30円
今の団体入り口の外側で入館料を徴収していた。インフォメーションは今のミュージアムショップの位置にあった。



当時のチケット購入窓口

自然展示室2の生命の系統樹(岐阜県博物館・自然部門)が、1975～76年度の日本ディスプレイ・デザイン賞銀賞を受賞!



昭和52年 (1977)

入館者数20万人突破!

多くの人が集まっているこの写真は入館者20万人突破の時の記念写真。

たくさん人が集まっているね



昭和54年 (1979)

入館者数50万人突破!

5月に入館者50万人を達成。
←50万人目の入館者の方と



人文移動教室「宝暦治水の史跡めぐり」を開催(5月)

はじめての体験教室 & 触察コーナー開設

岐阜市と杭州市が友好都市提携を結び、杭州使節団が来館(2月)

はじめての体験教室「自然観察会 アリを観る」を開催(8月)
視覚障害者(触察)コーナー開設(11月)



当時の展示案内 (100円)

昭和57年 (1982)

「博物館友の会」を設立

「フレンドの会」の名前を変えて「博物館友の会」を設立(10月)



ようこそナウマンゾウ!

ナウマンゾウ除幕式(2月)では、布を外す最後の瞬間、なんと牙に布が引っかかってしまうアクシデントも! 「博物館友の会」の前身となる「フレンドの会」を発足(8月)

今の様子と比べてみよう!



昭和58年 (1983)

1泊2日の自然観察教室開催

1泊2日の自然観察教室では板取村(現在の関市)の昆虫や植物を観察。



郷土学習室(現在の「みんなの部屋」)にビデオスタディコーナーを設置(10月)

昭和60年 (1985)

祝 入館者数100万人突破!!

入館者数100万人を突破(10月)

